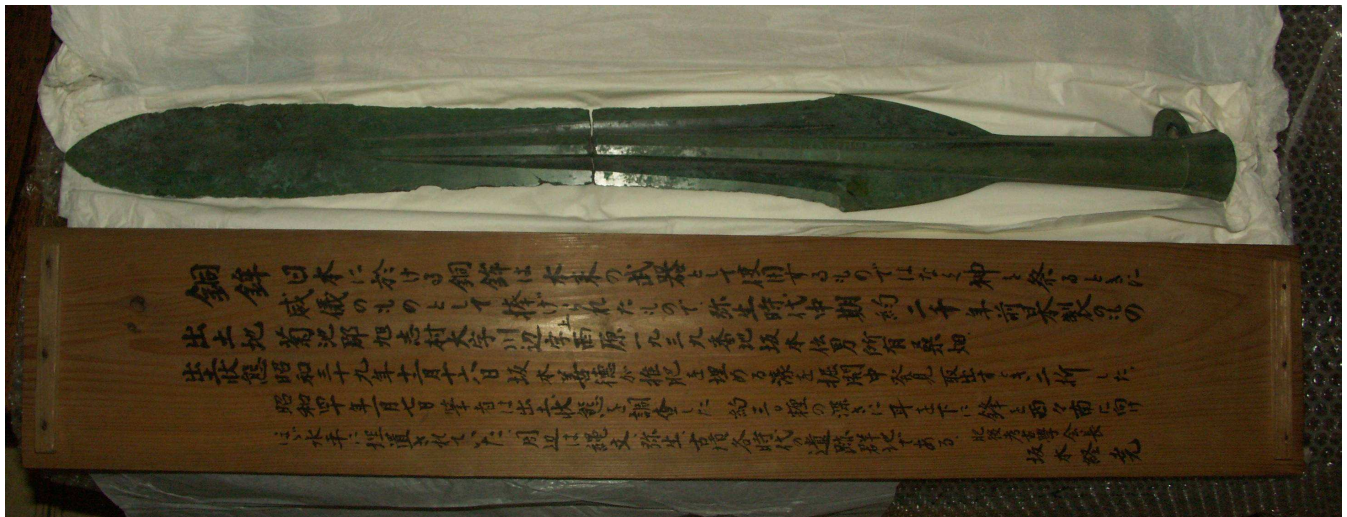


市指定文化財<考古資料>

かわべどうほこ  
川辺銅鉞

指定日 昭和52年4月1日

所在地 菊池市旭志川辺



現在はほ場整備が実施され当時とは異なる景観になっているが、国道325号線の東側、ワクド石遺跡の北西約1km、合志台地が緩やかに傾斜する中間地点で、昭和39年(1964)、<sup>たいひ</sup>堆肥処理の施設を整備中に偶然出土したものである。

弥生時代のものといわれ、鉞の本体に銘文はない。長さは75.3cm、最大幅6.4cmで、全体が緑青に覆われている。

銅鉞は、古代中国から朝鮮半島を通じて伝わった。槍のように用いる武器だが、槍と異なるのは、基部が袋状になり、そこに柄を差し込んで使用する点である。柄と基部を固定するために、基部の側面に耳と呼ばれる<sup>ひも</sup>紐がある。川辺銅鉞は中広形に分類される。

始め20cmほどの長さで武器として使用されていたものが、次第に大型化し、のちには祭祀用として用いられたといわれる。